

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【鹿児島県】

学校名【湧水町立栗野中学校】

1 実践テーマ	①・II・㊸・IV・㊹（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	1年 50名 2年 46名 職員 20名 計 116名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育・創意) ② 行事名 (オリパラ講演会 「パラリンピアンに学ぼう」) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	○ オリンピック・パラリンピックの意義を学び、スポーツに対する生徒の理解を深めることや、共生社会の在り方について関心を高める。 ○ 生徒がオリンピック・パラリンピアン生き方から、夢を持つことの大切さや、一生懸命努力することの大切さなどを学び、自分の生き方につなげさせる。

5 取組内容

＜保健体育 「夢に向かって～車いすアスリートの挑戦～」＞
○ 保健体育の授業の中で、夢に向かって努力し続ける事の大切さや、諦めずに挑戦し続ける態度を養うために、副島正純さんの「夢に向かって～車いすアスリートの挑戦～」を視聴させた。

＜オリパラ事業 二條実穂さんの講演会＞

- ・ 創意 1 時間
- ・ 場所 体育館
- ・ 対象 生徒 1, 2 年生 (96 名)



(内容)

- ① 「これまでの経緯」
- ② 「夢を持つことの大切さ」
- ③ 「夢を叶えるために大切にしている事」

＜オリパラ事業 車いすテニス体験＞

- ・ 体育 各 1 時間
- ・ 場所 体育館
- ・ 対象 生徒 1, 2 年生 (96 名)



(内容)

- ① 競技用車いすと通常の車いすの違いについて
- ② 競技用車いすを使った体験
- ③ 車いすテニス体験
- ④ 感想記入



＜朝のランニング（朝ラン）の実施＞

(目的)

- ・ 規則正しい生活習慣を身に付けるとともに、粘り強く目標に向かって努力する生徒の育成。

(内容)

- ・ 7:20～7:50 までの 30 分間
- ・ 軽いランニングや動き作り、リレーなどその日によって行う内容を生徒と相談して、実施している。
- ・ 全校生徒対象



6 主な成果

<保健体育 「夢に向かって～車いすアスリートの挑戦～」>

- 生徒の感想には「夢に向かって努力・挑戦することを大切にしたい。」「苦しいことがあっても、逃げない生き方をしたい。」などの感想が挙がるなど、目標に向かって努力しようとする思いを育むことができた。

<二條実穂さんの講演会>

- 生徒の感想には、「無理という言葉これから使わないようにしたい。」「夢を持つことは自分を動かす力になると分かった。」など、二條さんの人生観や大切にしていることが生徒に伝わり、自分の生き方に生かそうとする積極的な感想が数多く見られた。

その日の部活動から、生徒の様子も変わり、意欲的に活動する姿が増えた。スポーツだけでなく、学校生活の中で二條さんから学んだことが溢れるような学校になっていけば、生徒がより主体的に活動する活発な学校になるのではないかと思った。



<車いす体験>

- 生徒の感想には、「普段のテニスと比べて、全てが難しかった。」など、実際に競技用車いすに乗ることで、難しさを感じ、共生社会の一員として何ができるか考える良い機会になった。

また、パラリンピック競技への興味関心を高めることができた。



<朝のランニング（朝ラン）>

- 今回の講演会后、「今できることを全力でしないといけないと感じた」という生徒も増え、参加率が上がった。自分を律し、きついことや苦しいことにも挑戦しようとする生徒がもっと増えてほしい。



<まとめ>

- ・ 夢を持つことの大切さを理解し、自分なりの夢を口にす
る生徒が増えてきた。
- ・ 「オリパラリンピックを実際に観に行きたい」などの声があり、興味関心を高めることができた。

<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 車いすアスリート 副島正純さんの DVD を視聴させることで、視覚的にパラリンピアンの方から多様な考え方ができるように工夫した。 ○ 実際にオリンピック・パラリンピアンを招致し、トップアスリートの人生観や考え方を直接味わわせた。 ○ 競技用車いすを扱う体験を全生徒に味わわせることで、共生社会を目指す心情を育てた。 ○ 新型コロナウイルス感染症対策として、換気や使用したものの消毒をその都度行った上で、実施した。
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大変貴重な体験ではあるが、1 回きりの実施ではなく、継続的に実施することができると、生徒のオリンピック・パラリンピック東京大会への興味関心もさらに高まっていくのではないかと。 ○ トップアスリートの様々な体験や思いをこれからも味わわせていきたい。 ○ 朝ランへの参加率があまり良くない。それぞれの夢を生かして、朝ランの中に具体的な目標を立てさせたい。 ○ 新型コロナウイルス感染症の地域格差があったため、日程調整が難しかった。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ できたことを褒める指導を通して、生徒の夢実現に向けた声かけや支援を継続していく。 ○ 来年度以降、実施する予定はないが、機会があればぜひ実施して、生徒の豊かな心の育成に寄与してほしい。 ○ 「I'm POSSIBLE」を活用し、パラリンピックやパラリンピアンを取り上げた授業の実践。